

各関係機関長 殿  
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病虫害防除所長  
(公印省略)

平成30年度農作物病虫害発生予察情報について

平成30年度農作物病虫害発生予報第14号を発表したので送付します。

平成30年度農作物病虫害発生予報第14号

平成31年3月1日  
徳島県

I. 果樹  
果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期 平年より早い

発生量 平年より多く(前年より多い), 発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 勝浦町における昨年の予察灯誘殺数は, チャバネアオカメムシでは8月第2半旬より増加し, 8月第6半旬には1,191頭と, 平年(177.2頭)の約6.7倍となり, その後9月第1半旬には平年並に戻ったが, 9月第4半旬には1,449頭と, 平年(111.1頭)の約13倍, 10月第1半旬には1,140頭と, 平年(94.5頭)の約12倍となり, 温州ミカン等で被害が認められた(図1)。また, ツヤアオカメムシでは, 8月第2半旬より増加し, 8月第3半旬には2,400頭と, 平年(182.9頭)の約13倍となった(図2)。

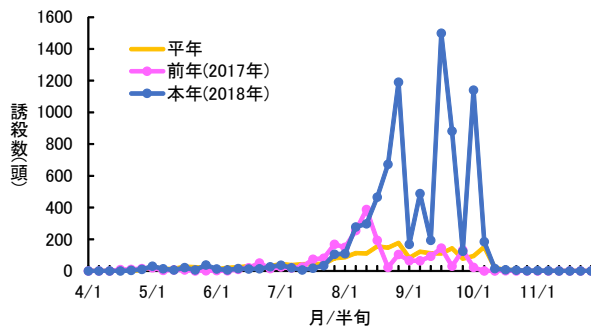


図1 予察灯によるチャバネアオカメムシの誘殺数推移(勝浦町)

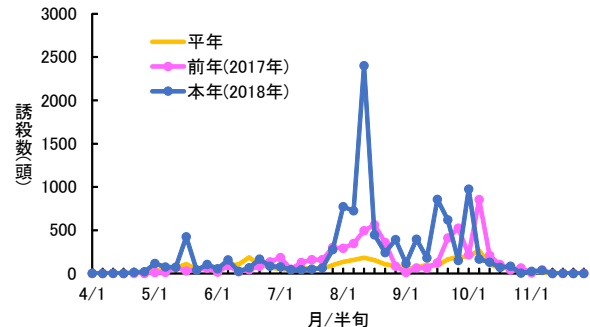


図2 予察灯によるツヤアオカメムシの誘殺数推移(勝浦町)

上板町における予察灯誘殺数は, チャバネアオカメムシでは, 8月第2半旬までは平年並に推移したが, 8月第3半旬より増加し, 8月第5半旬には150頭と, 平年(27.3頭)の約5.5倍となり, 県北部のカキで被害が認められた。また, ツヤアオカメムシでは, 7月第6半旬より増加し, 8月第3半旬には89頭と, 平年(13.4頭)の約6.6倍となり, 10月第1半旬にも94頭と, 平年(46.2頭)の約2.0倍となった(図4)。

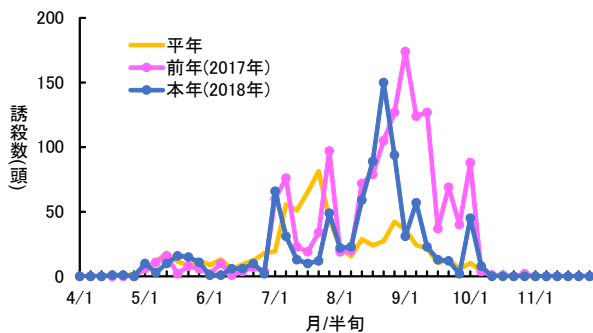


図3 予察灯によるチャバネアオカメムシの誘殺数推移(上板町)

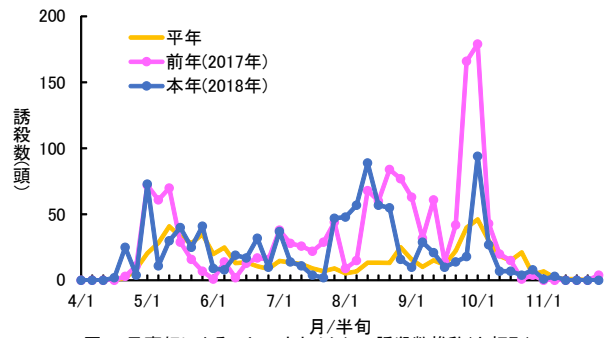


図4 予察灯によるツヤアオカメムシの誘殺数推移(上板町)

- (2) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では、9地点で越冬を確認、越冬成虫は7.0頭/m<sup>2</sup>であり、平均(1.6頭/m<sup>2</sup>)に比べて高く、前年(成虫確認地点数は8地点、越冬成虫数は0.9頭/m<sup>2</sup>)に比べて高い越冬密度であった。
- (2) 高松地方気象台が2月28日に発表した1か月予報では、気温は平均より高く、降水量は平均より多く、日照時間は平均並か少なく、平均に比べて晴れの日が少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

## II. 野菜

### 冬春トマト

#### 疫病

##### 1) 予報内容

発生量 平均並～やや多く(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%と、平均(14.7%)に比べてやや高いが、発病度は0.4と、平均(0.8)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が2月28日に発表した1か月予報では、気温は平均より高く、降水量は平均より多く、日照時間は平均並か少なく、平均に比べて晴れの日が少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 窒素肥料を過用すると茎葉が軟弱となり発生しやすくなるので、肥培管理に注意する。
- (3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (4) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行う。特に、下葉には丁寧に散布する。

#### 灰色かび病

##### 1) 予報内容

発生量 平均より多く(前年より多い)、発生程度は「少～中」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が55.6%、発病葉率が2.7%と、平均(9.8%, 0.2%)に比べて高い。なお、発病果実は認めていない(平均同時期は発病果率が0.0%)。
- (2) 高松地方気象台が2月28日に発表した1か月予報では、気温は平均より高く、降水量は平均より多く、日照時間は平均並か少なく、平均に比べて晴れの日が少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、ハウス外で処分する。
- (3) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## 葉かび病

### 1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年並), 発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が10.0%, 発病度が0.8)。
- (2) 高松地方気象台が2月28日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年より多く, 日照時間は平年並か少なく, 平年に比べて晴れの日が少なく, 期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており, 発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20~25℃位で多湿の時に発生しやすいので, 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には, 暖房機のファンを作動させて, ハウス内の多湿化を防止する。
- (2) 肥料切れは病勢の進展を助長するので, 肥培管理に注意する。
- (3) 罹病葉は伝染源になるので, できるだけ早く摘み取って, ハウス外で処分する。
- (4) 病原菌は気孔から侵入するので, 薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行う。
- (5) 薬剤感受性の低下を回避するため, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

## コナジラミ類

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が44.4%と, 平年(44.2%)並の発生であるが, 寄生葉率は1.2%と平年(4.0%)に比べてやや低い。なお, 種別割合は, オンシツコナジラミ及びタバココナジラミとも同程度である。
- (2) 高松地方気象台が2月28日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年より多く, 日照時間は平年並か少なく, 平年に比べて晴れの日が少なく, 期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており, 発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。また幼虫は葉裏に多く寄生しているので, 薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

## 冬春ナス

### 灰色かび病

#### 1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少~中」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が42.9%, 発病果率が0.9%と, 平年(4.5%, 0.08%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が2月28日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年より多く, 日照時間は平年並か少なく, 平年に比べて晴れの日が少なく, 期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており, 発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすい。特に湿度の影響が大きいので, 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には, 暖房機のファンを作動させて, ハウス内の多湿化を防止する。また, 灌水過多にならないように注意する。
- (2) 朝夕の急激な冷え込みは発生を著しく助長するので, 適切な温度管理に努める。
- (3) 発病果や花弁などは伝染源になるので, できるだけ早く除去し, ハウス外で処分する。
- (4) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (5) 薬剤感受性の低下を回避するため, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

## うどんこ病

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では,発生圃場率が14.3%,発病葉率が0.3%と,平年(16.2%,0.5%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が2月28日に発表した1か月予報では,気温は平年より高く,降水量は平年より多く,日照時間は平年並か少なく,平年に比べて晴れの日が少なく,期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており,発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので,初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は早期に圃場外に持ち出し,病原菌密度の低下に努める。
- (3) 薬剤感受性の低下を回避するため,同一系統の薬剤の連用は避ける。

## すすかび病

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少～中」

### 2) 予報の根拠

- (1) 2月後半の巡回調査では,発生圃場率が42.9%,発病葉率が6.4%と,平年(63.1%,8.0%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が2月28日に発表した1か月予報では,気温は平年より高く,降水量は平年より多く,日照時間は平年並か少なく,平年に比べて晴れの日が少なく,期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており,発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が25℃くらいで多湿の時に発生しやすいので,施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には,暖房機のファンを作動させて,ハウス内の多湿化を防止する。また,灌水過多にならないように注意する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤が下葉の葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤感受性の低下を回避するため,同一系統の薬剤の連用は避ける。

## アブラムシ類

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で,発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では,発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が3.1%,寄生葉率が0.1%)。
- (2) 高松地方気象台が2月28日に発表した1か月予報では,気温は平年より高く,降水量は平年より多く,日照時間は平年並か少なく,平年に比べて晴れの日が少なく,期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており,発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので,薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので,同一系統の薬剤の連用は避ける。

## アザミウマ類

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない),発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では,発生圃場率が14.3%,寄生葉率が0.3%と,平年(41.2%,6.2%)に比べて低い。なお,被害果実は認めていない(平年同時期は被害果率が1.5%)。
- (2) 高松地方気象台が2月28日に発表した1か月予報では,気温は平年より高く,降水量は平年より多く,日照時間は平年並か少なく,平年に比べて晴れの日が少なく,期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており,発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 花器, 新葉, 葉裏, 葉の重なった部分などに集まる習性があるので, それらの部分に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### コナジラミ類

- 1) 予報内容  
発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
  - (1) 2月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が42.9%, 寄生葉率が3.6%と, 平年(25.2%, 1.3%)に比べてやや高い。
  - (2) 高松地方気象台が2月28日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年より多く, 日照時間は平年並か少なく, 平年に比べて晴れの日が少なく, 期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており, 発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
  - (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。また幼虫は葉裏に多く寄生しているので, 薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
  - (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### ハダニ類

- 1) 予報内容  
発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
  - (1) 2月第6半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が3.1%, 寄生葉率が0.0%)。
  - (2) 高松地方気象台が2月28日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年より多く, 日照時間は平年並か少なく, 平年に比べて晴れの日が少なく, 期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており, 発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
  - (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は葉裏に寄生しているので, 薬液が葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。
  - (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので, 同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### 冬春キュウリ

##### うどんこ病

- 1) 予報内容  
発生量 平年並(前年よりやや多い)で, 発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
  - (1) 2月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が66.7%と, 平年(69.4%)並の発生であるが, 発病葉率は4.4%と, 平年(9.4%)に比べてやや低い。
  - (2) 高松地方気象台が2月28日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量は平年より多く, 日照時間は平年並か少なく, 平年に比べて晴れの日が少なく, 期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており, 発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
  - (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので, 初期防除に努める。
  - (2) 罹病葉は圃場外に持ち出し, 病原菌密度の低下に努める。
  - (3) 同一系統薬剤の連用は耐性菌出現の恐れがあるので避ける。

##### 灰色かび病

- 1) 予報内容  
発生量 平年並(前年よりやや多い)で, 発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
  - (1) 2月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が11.1%, 発病果率が0.2%と, 平年(9.7%, 0.4%)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が2月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少なく、平年に比べて晴れの日が少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすい。特に湿度の影響が大きいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 朝夕の急激な冷え込みは発生を著しく助長するので、適切な温度管理に努める。
- (3) 発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く除去し、ハウス外で処分する。
- (4) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (5) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## べと病

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が22.2%、発病葉率が6.4%と、平年(49.3%, 11.0%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が2月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少なく、平年に比べて晴れの日が少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 肥料切れや着果過多などで樹勢が衰えた場合に激発するので、肥培管理に注意する。
- (3) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤散布は、葉の裏側を重点的に行う。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## 褐斑病

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「中」

### 2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が55.6%、発病葉率が7.4%と、平年(68.8%, 11.6%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が2月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少なく、平年に比べて晴れの日が少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤散布は、葉の裏側を重点的に行う。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## アブラムシ類

### 1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%、寄生葉率が1.6%と、平年(5.6%, 0.1%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が2月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少なく、平年に比べて晴れの日が少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

#### アザミウマ類

##### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が11.1%と、平年(29.9%)に比べてやや低く、寄生葉率も0.2%と、平年(3.5%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が2月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少なく、平年に比べて晴れの日が少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### コナジラミ類

##### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が11.1%と、平年(5.6%)に比べてやや高いが、寄生葉率は0.3%と、平年(0.2%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が2月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少なく、平年に比べて晴れの日が少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。コナジラミ類は葉裏に寄生するので、薬液は葉裏にも十分に付着するよう丁寧に散布する。
- (2)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### 冬春ホウレンソウ

##### べと病

##### 1) 予報の内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が8.3%、発病度が0.3と、平年(6.1%, 0.5)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が2月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少なく、平年に比べて晴れの日が少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 県内では、べと病菌レース13による発病が確認されているので、レース13以上に抵抗性を持つ品種を利用する。作型等の関係で作付けできない場合には、薬剤による防除を徹底する。
- (2) 平均気温が8~18℃で曇雨天が続くと、多発しやすい。発生が多くなると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤は予防的に、また下葉や葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3) 葉が繁茂して軟弱となると被害が多いので、肥培管理に注意する。
- (4) 病原菌は被害株に付着越冬し、春になると分生胞子を形成して伝染する。春先の発生を抑制するために、薬剤を予防的に散布する。
- (5) 罹病株を圃場に放置すると、次作の第一次伝染源となるので、発病株は速やかに処分する。また、春先に萎縮して奇形となった株はべと病に感染しているので、速やかに処分する。

#### アブラムシ類

##### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

## 2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が41.7%、1株当たり寄生虫数が0.03頭と、平年(41.0%、0.7頭)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が2月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少なく、平年に比べて晴れの日が少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

## 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

## 冬春イチゴ

### 灰色かび病

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が8.6%、発病果率が0.5%)。
- (2) 高松地方気象台が2月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少なく、平年に比べて晴れの日が少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。
- (2) 発病果は伝染源になるので、速やかに圃場から持ち出し処分する。
- (3) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

### うどんこ病

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が2.9%、発病葉率が0.1%、発病果率が0.3%)。
- (2) 高松地方気象台が2月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少なく、平年に比べて晴れの日が少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 古葉を早めに除去し、葉裏に薬液が十分かかるように丁寧に散布する。
- (3) 罹病した果実や茎葉などは早期に見つけ、除去した後圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (4) 薬剤感受性の低下を回避するため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

### アブラムシ類

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が28.6%、寄生株率が4.0%と、平年(25.0%、3.1%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が2月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少なく、平年に比べて晴れの日が少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているの



- で、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。  
(2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

#### ハダニ類

##### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中～多」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が85.7%、寄生葉率が33.4%と、平年(67.1%、19.2%)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が2月28日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より多く、日照時間は平年並か少なく、平年に比べて晴れの日が少なく、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、発生助長的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

### Ⅲ. その他

1. 施設栽培において暖房機の最低気温の設定値を下げ過ぎると、低温性病害の発生を著しく助長する恐れがあるので、注意する。
2. 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないよう注意する。

#### 発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所  
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

- 病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。